

# 第十回 十湖賞

俳句大会

入選句集

「身近な暮らしや行事」を詠む



■主催／浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会、浜松市 ■協力／浜松文芸館

■後援／静岡県教育委員会、浜松市教育委員会、静岡県俳句協会、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送、NHK静岡放送局、テレビ静岡、静岡朝日テレビ、だいいちテレビ、K-mix、FM Haro!、ケーブル・ウィンディ

平成 27 年 2 月発行

<発行元> 浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会

<事務局> 浜松市東区役所区振興課内

浜松市東区流通元町 20 番 3 号

TEL 053-424-0115

E メール e-shinko@city.hamamatsu.shizuoka.jp

# 「十湖賞」と「浜松市東区俳句の里づくり事業」

まつしまじつこ

松島十湖翁は江戸の末期、現在の浜松市東区豊西町に生まれた俳人にして政治家、さらには地域貢献に努めた篤志家です。生涯に創られた句は8千を超えるとも言われ、全国各地に多くの門人がおりました。

十湖翁の俳句は、松尾芭蕉翁から蕉風を継承すべく、花鳥風月といわれる、春夏秋冬・四季折々の自然、あるいはその中の生活を詠む伝統的なものです。

「はま松は出世城なり初松魚」は、「出世の街浜松」を象徴する、浜松を誇る気持ちを詠んだ句です。

東区では、こうした十湖翁の遺徳を称えとともに「郷土を愛する心」を今に伝えるべく「十湖賞」俳句大会を開催いたしております。

元来、東区内には多くの句碑群があり、同時に多くの俳人をも輩出し、俳句の里としての側面を垣間見ることが出来ます。

東区及び実行委員会では、このような背景のもと、「浜松市東区俳句の里づくり事業」を行っております。

## 第七回「十湖賞」俳句大会入選句集

平成27年2月11日(水)

於 浜松市総合産業展示館北館4階1号ホール



### 目次

ごあいさつ	2・3
十湖大賞	4
十湖賞	5
東区長賞	
県教育長賞	6
市教育長賞	
特選	7
佳作	8・9
奨励賞	10～13

### 選者

九鬼あきゑ氏

(「推」主宰)

笹瀬節子氏

(「みづうみ」主宰)

鈴木裕之氏

(「海坂」主宰)

高柳克弘氏

(「鷹」編集長)

※五十音順

### 第七回「十湖賞」俳句大会投句実績

一般の部		高校生の部		中学生の部		小学生の部		全 体		一般の部・地域別	
人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	地域	投句数
646	2,313	1,252	2,949	1,748	3,550	2,143	5,284	5,789	14,096	市内	1,465
										県内(浜松市外)	314
										県外	534
										合計	2,313

※募集期間：平成26年7月5日(土)～10月10日(金)

第七回「十湖賞」俳句大会は、全部門で5789人、1万4096句とたくさんの方の投句をいただくことができました。特に一般の部では、投句者の地域別に見ても市内、県内、県外とも前回の投句者数、投句数を上回り、非常に喜ばしく思っております。投句された皆様に深く感謝の意を表すとともに、入選された皆様にお祝い申し上げます。

本年度は、「十湖賞」俳句大会の啓発事業として、俳句未経験の方や俳句を始めたばかりの方が、気軽に俳句に取り組めるようなきっかけづくりをする「みんなで一緒に俳句を作ろう！」や「俳句座談会」などのイベントを開催しました。今までにない新しい試みで、多くの方にご参加いただくことができました。

これからの俳句大会では、より多くの皆様に投句していただけるように、今まで培った経験や様々な俳句大会の成功事例なども取り入れていきたいと考えています。

今後様々な事業を模索しながら「俳句の里・東区」の発展に努めてまいります。皆様からの末長いご協力ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

浜松市東区長 朝月 雅則

「十湖賞」の由来となった松島十湖翁は、現在の東区豊西町に生まれ、若くして宗匠として活躍した遠江を代表する旧派の俳人です。豊西町がある笠井地区をはじめ、東区では俳句が盛んで、十湖翁の教えにより400基もの句碑が現存しています。このような俳句に親しむ地域特性を活かし、平成19年度から「東区俳句の里づくり事業」を実施しております。

この事業では「十湖賞」俳句大会のほかに、「小中高校俳句講座」や「句碑めぐり」などを実施して、区内の子どもたちへ俳句の裾野を広げたり、地域資源を再発見したりするなど、俳句文化の醸成に努めています。

さらに本年度は、「十湖賞」選者の高柳克弘氏が「浜松市やらまいか大使」に就任されました。高柳氏のますますのご活躍を祈念しております。

結びに、「十湖賞」俳句大会に投句していただいた皆様や選考して下さった選者の方々ははじめ、「東区俳句の里づくり事業」に携わってくださったすべての方々に心から感謝を申し上げます。挨拶とさせていただきます。



## 十湖大賞・十湖賞〈高校生の部〉

麦わらのあみ目を透かし彼がいる

浜松学芸高校二年 片岡 愛奈

評：真夏の太陽の下、明るく健康的な作者の目差を先ず感じます。麦藁帽子を透かして恋心を寄せる彼の顔は眩しく好感に溢れるように描かれています。心の通い合いが感性ゆたかな表現となつて見事な一句にまとめました。(鈴木裕之)

## 十湖賞

〈一般の部〉

みんないてみんなひとりの月夜かな

福岡県田川郡糸田町 平穂野香

評：月の美しい晩。みんなで月を愛でている。各々が何かに打たれたように月と対座している景。みんないるのだが、みな一人。現代社会の縮図の一面を見るような一句。表現はやさしいがその奥に拡がる世界は深い。(九鬼あき晃)

〈中学生の部〉

徒競走ダツシユの瞬間夏が来た

天竜中学校三年 川井 夏実

評：徒競走ではまず、ラインに並んでスタートを待ちます。合図とともに、力を全部解放して思い切りダツシユ！その瞬間、夏という季節が自分と確かにつながったと感じたのです。躍動的で、初夏の風のように清々しい句です。(高柳克弘)

〈小学生の部〉

なすの牛今年は上手く立てるかな

和田小学校六年 白井 美有

評：お母さんを手伝って盆の用意をしている美有さん。「今年は上手く立てるかな」と、毎年お手伝いをしているだろうと想像できるフレーズが微笑ましい。精霊棚に飾るものは風習によつて異なるが、「なすの牛」だから愉快。(笹瀬節子)

## 東区長賞

〈一般の部〉

母の日に届くエプロンすみれ色

袋井市 豊田芳子

## 県教育長賞

〈高校生の部〉

蝉の声命の重さ唄いけり

浜名高校二年 赤池沙綾

## 市教育長賞

〈中学生の部〉

新品の教科書めくる春の風

笠井中学校二年 川口桜玲

〈小学生の部〉

秋の雨遠い島まで降りそそぐ

有玉小学校六年 大和谷匠

## 特選

〈一般の部〉

村歌舞伎白塗りの子の一途な目

浜松市浜北区 松本 つね

秋祭り人も草木も翻へる

浜松市東区 鈴木 明寿

〈高校生の部〉

電車待ち匂いと共に花吹雪

浜名高校一年 石川 実奈

カブトムシ虫の王者はおれのこと

浜松東高校一年 豊田 祐太郎



〈中学生の部〉

町中にねりが響くよ秋まつり

西遠女子学園中学校一年 吉岡 明美

「メン」と打つ竹刀の先に秋の空

天竜中学校二年 川島 結晴

〈小学生の部〉

カラコロとげたの音立て花火見に

中ノ町小学校六年 藤島 彩花

しゃぼん玉私の夢ととんでゆけ

中ノ町小学校六年 井出 佳奈子



# 佳作

## 〈一般の部〉

浦祭どの家も大戸開けてあり

浜松市南区 下位 桂子

借り物は校長先生運動会

京都府亀岡市 井上 實

形代に思ひ込めたる息太く

浜松市東区 宮澤 秀子

髪洗ふ無断で使ふ娘のシャンプー

愛媛県伊予市 谷井 紀夫

秋晴へひつばつて干す漁網かな

浜松市西区 村松 きくゑ

梨を食む黙つてそばに来る父と

新潟市西区 仲野 茜

## 〈中学生の部〉

雪うさぎだんだん子供に戻つてく

天竜中学校一年 吉岡 朋美

流れ星泣いていたのは秘密だよ

与進中学校三年 中地 舞桜

早春の気合みなぎる剣士たち

与進中学校三年 山田 竜太郎

いいにおいキッチンからのくりごはん

笠井中学校一年 辻 亮輔

母の日に台所立つ三姉妹

与進中学校三年 鈴木 良奈

走れおどれ歌えさけべ体育祭

与進中学校一年 片岡 凪



## 〈高校生の部〉

積分も金木犀にとける午後

静岡聖光学院高校二年 杉本 耕平

砲丸に手に汗握るこの一投

浜名高校三年 石井 健太

食卓を笑いで包む秋刀魚かな

浜名高校三年 村木 亜里紗

ボランティアスイカ切る手が震え居り

浜松東高校二年 藤本 瑞希

鯛雲鉛筆の先夢描く

浜名高校三年 山内 滯

一夏をネガ一枚に閉じこめて

浜名高校二年 下向 匠太

## 〈小学生の部〉

秋祭り祖父がつくつた屋台引く

中ノ町小学校六年 馬瀨 脩

カブトムシ男気見せて決闘だ

和田東小学校六年 池端 今汰

ふかふかのおちばの中にダイビング

豊西小学校四年 鈴木 杏莉

みないふりつきがあとからついてくる

大瀬小学校二年 権部 龍樹

なわとびを百回とべたらママに言う

富塚西小学校二年 池谷 英恵

去年よりきつく感じる水泳帽

和田小学校六年 竹山 侑希



# 奨励賞

△一般の部▽

風紋に一步を刻む初日の出

金柑の五線譜のごと色づきて

手花火や闇を濃くして闇を呼ぶ

米磨ぐは生きてゐる音水の秋

大鍋に輪切り乱切りきのこ汁

真つ先に父が駆け出す捕虫網

人間が一番嫌ひ捨案山子

初風をあげて真の父となり

星が星産む故郷の秋祭

浜松市東区

大石次代

浜松市東区

山本佳須美

静岡市清水区

栗田煌水

磐田市

松下允子

磐田市

中嶋やす系

東京都国立市

新保徳泰

浜松市浜北区

川島靖子

浜松市南区

渥美英雄

浜松市南区

杉本たつ子

ヘルメット傍らにあり三尺寝

まるつきり台詞を忘れ村芝居

御輿昇く男勝りの肌光る

秋祭の群衆を分け郵便夫

真四角に空を切り取る奴風

組体操一氣に崩れ天高し

夜仕事の絵本の点字打ちゐたる

車椅子今年も祭り近くなり

旅の妻思ふ夕餉や冷奴

朝顔時く波郷のことを知りたくて

母と子の成人の日の缶チューハイ

東京都大田区

市川廉

横浜市港北区

竹澤聡

浜松市浜北区

古木ヒロ代

浜松市北区

野澤晴子

東京都八王子市

岡部美穂

岐阜県大垣市

大井公夫

神奈川県平塚市

尾崎千代一

浜松市東区

池田充義

長野県長野市

白鳥寛山

浜松市中区

伊賀和子

岡山市北区

信安淳子

△高校生の部▽

稲光り風より速く目をつぶる

真夜中にふくるふのこ系ミルクティー

「キョッなら」じゃなくて「またね」と散る桜

青空は台風からのプレゼント

七夕の空は願いを包みこむ

カタツムリ親子そろって雨宿り

青い空見上げて綱引け腰おとせ

炎天下グラウンドかける風になれ

青空へスイカの種を吹きとばす



浜松東高校二年

今泉翔

浜松学芸高校一年

夏目真帆

浜名高校一年

竹内朱音

浜名高校一年

小杉涉留

浜名高校三年

渡邊香奈

浜名高校三年

田邊萌華

浜名高校三年

袴田優奈

浜松東高校一年

金原和哉

浜名高校三年

志水麻衣香

ヘルメット傍らにあり三尺寝

まるつきり台詞を忘れ村芝居

御輿昇く男勝りの肌光る

秋祭の群衆を分け郵便夫

真四角に空を切り取る奴風

組体操一氣に崩れ天高し

夜仕事の絵本の点字打ちゐたる

車椅子今年も祭り近くなり

旅の妻思ふ夕餉や冷奴

朝顔時く波郷のことを知りたくて

母と子の成人の日の缶チューハイ

葉から葉へてんとうむしの一人旅

首もとをゆらゆらぬける残暑かな

風薫る季節が真横通りすぎ

紅葉は心の中の映画館

亡き祖母を鬼灯ひとつ迎えたり

パイナップルすぐに皿から消えていく

うえ見れば無花果色に染まるそら

雪落ちてふと見上げればすずめたち

帰り道涙こらえてオリオン座

懐かしきあそこに行けば赤絨毯

交差する過去と未来が大みそか

浜松東高校一年

近藤稜

浜名高校二年

齋藤実里

浜名高校三年

川島沙織

浜名高校一年

林謙斗

浜名高校三年

松島歩美

浜松東高校一年

鈴木巴瑠名

浜松東高校一年

中村友香

浜名高校一年

楠琴斗弥

浜名高校三年

渡邊加奈

浜名高校一年

安積稗

浜名高校三年

伊藤友洋

風紋(ふうもん)  
御輿(みこし)

金柑(きんかん)  
昇(か)

捕虫網(ほちゅうあみ)  
夕餉(ゆうげ)

案山子(かかし)  
波郷(はきょう)

絨毯(じゅうたん) 無花果(いちじく) 鬼灯(ほおずき)

# 奨励賞

## 〈中学生の部〉

ユニフォーム汗がにじんで濃い青に

丸塚中学校三年  
伊藤紗弥加

大会で負けて帰った空に虹

笠井中学校三年  
鈴木香帆

眠れない右往左往の熱帯夜

積志中学校三年  
永田雪菜

隙間風私の足をさわってく

丸塚中学校三年  
江川緋南

しゃぼん玉世界見ようと天高く

与進中学校二年  
佐々木朝飛

沈む陽と一緒に見つめる赤とんぼ

笠井中学校二年  
関谷武

はちまきがみんなを結ぶ体育祭

聖隷クリストファー中学校二年  
齋藤英里加

声出して一つになった運動会

笠井中学校三年  
川口芹奈

ひよつとこの面をかぶって秋祭り

丸塚中学校三年  
野中佑樹



鯉幟いろんな空でおよいでる

中郡中学校一年  
篠崎元幹

勉強はもういやだよとさげふ秋

与進中学校一年  
他村イアニ

紫陽花の花といつもの通学路

中郡中学校一年  
河島沙弥

いわし雲遠き思い出よみがえる

与進中学校三年  
中嶋実緒

部活動終わったあとの秋の空

与進中学校二年  
良知遙

手にとればあの日に返る林檎かな

丸塚中学校三年  
戸田愛結

稲刈りで畑から色が消えていた

天竜中学校一年  
山本隼雅

絵の具出し夏空仰ぎ筆を持つ

丸塚中学校三年  
大津有梨亜

はまホール歌声ひびき小鳥来る

天竜中学校一年  
武田紗弥

蛇口ひねる手ももどかしく夏の空

与進中学校三年  
田北雄大

かき氷べろをだしたらゾンビだな

与進中学校三年  
伊藤優斗

## 〈小学生の部〉

大空に夜の生け花大花火

豊西小学校五年  
藤森聖弥

昼ねして時間旅行をしてきたよ

積志小学校五年  
小野田彩花

まよいねこ見つめる先におぼろ月

積志小学校六年  
三木ひかる

秋の山木々が色づき歌うよう

有玉小学校六年  
近藤千織

菜の花が朝をちよっぴりかざってる

積志小学校六年  
長土居芽衣

入道雲空でもくもくいばってる

北浜南小学校六年  
今木志音

豆まきで心のおにをやつつける

与進小学校六年  
斉藤優奈

夏の空打ったボールが点になる

与進北小学校六年  
山本拓夢

すずめたち刈田目指して突進だ

大瀬小学校五年  
岡田姫佳

あの声はぼくがはなしたせみの子か

与進北小学校六年  
幸田諒



虫ずもうぼくの畑は競技場

積志小学校六年  
下園将晃

散歩道追いかけてゆく青田風

北浜南小学校六年  
日高有紀子

川遊び岩の上からとびこんだ

中郡小学校五年  
鈴木恵介

母の日に伝えきれないありがとう

与進北小学校六年  
前島歩南

新学期学級委員に立候補

積志小学校六年  
埋田向日葵

空高くわたしの楽器ひびかせて

豊西小学校四年  
宮野渚

庭の木にせみのぬけがら花のよう

和田小学校六年  
菅沼未来

水やりをやっているつもりが水遊び

北浜南小学校六年  
内山由莉

稲刈りでちくちくあたってはだ真赤

豊西小学校五年  
岡本真菜佳

夏祭りかかしみたいにくかた着て

豊西小学校五年  
伊藤蘭